

## 背景と目的

- ・アフリカ豚熱、口蹄疫、鳥インフルエンザ等の国境を越えてまん延する動物疾病（越境性動物疾病）は、一国のみで効果的なまん延防止を図ることが困難であり、発生時には、国際協力により、早期に封じ込めることが大変重要です。
- ・本事業は、国連食糧農業機関（FAO）が実施する、家畜衛生上の有事に備えた情報収集、各国における越境性動物疾病の予防、対応、管理及び撲滅のための専門家チームの派遣と技術的支援、及び2011年に撲滅が宣言された「牛疫」の世界における清浄性維持を目的とします。

## 主な活動内容

- ・越境性動物疾病の発生が確認された国からの要請を受けて、専門家チームを派遣し、まん延防止措置等に関する技術的助言を実施。
- ・新たな疾病発生リスクのある国を対象に、発生時対応能力等を事前に評価し、研修等によりキャパシティビルディング（能力強化）を行い、発生に備えた危機管理体制の構築・強化を支援。
- ・牛疫ウイルスの廃棄または特定隔離施設への集積（輸送・保管）を支援。
- ・万が一「牛疫」が再興した場合に備え、農研機構動物衛生研究部門（OIE（国際獣疫事務局）/FAOによる牛疫ウイルス及び牛疫ワクチン保持認定施設）と連携して、牛疫ワクチンを迅速に供給する体制を整備。

## 事業成果

- ・各国の技術的キャパシティを強化し、準備体制を構築することにより、越境性動物疾病の世界的なまん延防止リスクを低減しました。これにより、我が国への動物疾病の侵入リスクを低減し、国内における畜産物の安定生産に貢献しました。
- ・牛疫ウイルスの適切な管理体制の構築やワクチン生産システムの増強により、「牛疫」の再興防止や再興時の対応能力の向上に貢献しました。



口蹄疫発生時の検体採取



馬インフルエンザ及びアフリカ馬疫の発生対応



アフリカ豚熱のまん延防止に係る  
養豚農家への現地指導

（写真出典：FAO）